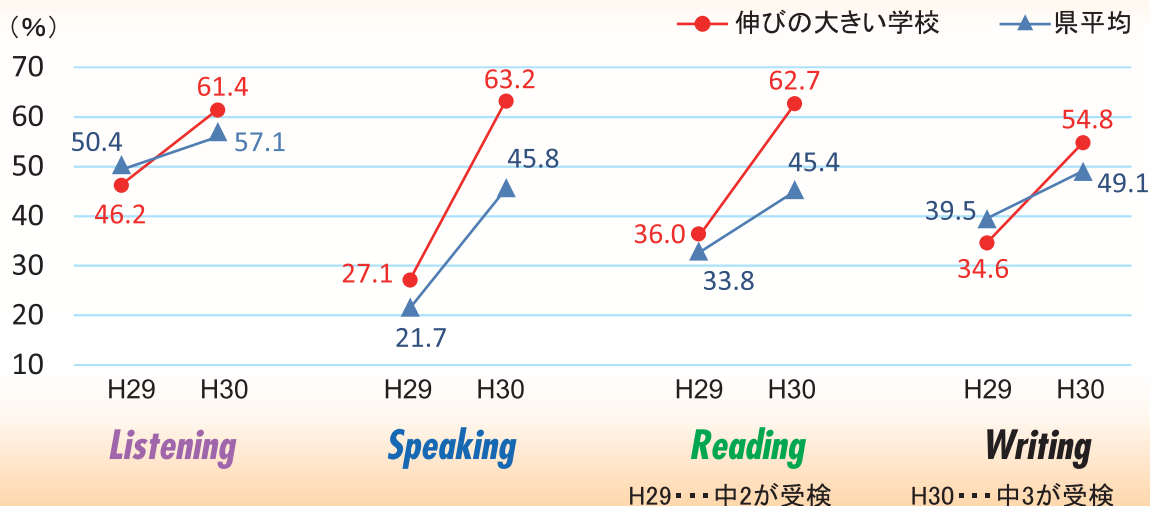


『中学校英語 4技能をバランスよく育成するために』の趣旨を踏まえた

授業改善のすすめ

生徒の英語に関わる4技能を測定する一つの指標として、GTEC(Core)があります。
平成29、30年度に継続してGTEC(Core)を受検し、達成率(スコア)を大幅に伸ばした学校がありました。

GTEC 4技能別達成率の変化(県内受検校平均)



達成率を大きく伸ばした学校の取組

各校の工夫した取組



Listening

- ① 明確な目的をもって聞かせる
- ② 多くの英文を聞かせる

P.2へ

Speaking

- ① 基本的な語句や文の定着を図る
- ② 話す場を多く設定する

P.3へ

Reading

- ① 明確な目的をもって読ませる
- ② 多くの英文を読ませる

P.4へ

Writing

- ① 基本的な語句や文の定着を図る
- ② まとまりやつながりのある文を書かせる

P.5へ

『中学校英語 4技能をバランスよく育成するために』と本リーフレットを参考にし、授業改善を図りましょう。

Listeningの力を伸ばした学校はこう取り組んでいる!

① 明確な目的をもって聞かせる

Point

- ・必要な情報を聞き取らせる
- ・概要を捉えさせる
- ・要点を捉えさせる

- 教科書の単元導入、本文、聞き取り問題等、様々なListeningの素材を、それぞれの目的を明確にして聞かせる。
- 聞き取らせたいポイントを聞く前に示す。
 - ・必要な情報…時間や場所等
 - ・概要……………話全体の大まかな内容
 - ・要点……………話し手の最も伝えたいこと
- 目的によって聞く回数を工夫する。
 - ・1回だけで概要を捉えさせる。
※実際の場面では、1回しか聞けないことが多いことを意識させる。
 - ・必要な情報が聞き取れるまで何度も聞かせる。
- 音と文字と意味のつながりを意識させる。
 - ・聞き取り後、英文の原稿を見ながら再度聞かせ、語と語の連結による音の変化や強勢・イントネーション・区切りなどが、意味内容とどうつながっているか確認させる。



② 多くの英文を聞かせる

Point

授業は英語で行うことを基本とする

- 教師の発話は英語で行う。
 - ・生徒の理解を補助する場合は、既習表現を用いて言い換えるようにする。
- 教師の一方的な説明ではなく、やり取りをしながら、生徒の「聞くこと」「話すこと」の機会を一体的に増やす。

Point

ALTを積極的に活用する

- ALTとのTTでは、主に文法学習を行う。
 - ・文法の説明を減らし、ALTとのデモンストラーションから、文の意味を理解させる。
 - ・言語活動を通して学ばせる。
- ALTの話聞き取らせる時間を設ける。
 - ・生徒の英語力や学習状況等の実態に合わせたまとまりのある英文を準備し、毎回聞かせる。
 - ・日常的な話題や社会的な話題等、幅広い題材を扱う。

〔題材例〕

- 単元の題材に関するALTの母国の情報
- 他教科で学習中の題材と関連させた話
- ALTの現在の生活、学生時代や家族の話
- 学校行事等、生徒が取組中のこと
- 日本や世界で話題になっているニュース

授業外でも!

- 登下校時、校門で、英語科以外の教員も英語であいさつをしたり、話しかけたりする。
- 始業式や体育会など全校生徒が集まる場で、英語を話したり、聞いたりする機会を設ける。

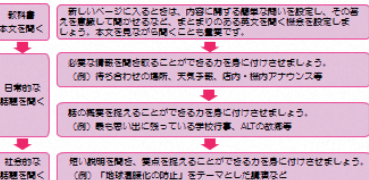
Ⅲ. 4技能(5領域)別の指導のポイント

① Listening

Listeningでは、正確な聞き取りだけでなく、全体の概要をつかむ力や必要な情報を聞き取らせることが求められます。

概要や要点を聞き取らせる

まずは教科書の本文をCDで聞かせるなど、生徒の身近にある音源を活用しましょう。その際、日常的な話題について必要な情報を聞き取らせたり、話の概要を捉えたりすることが出来るかを身に付けさせましょう。その際、聞き取らせる内容を生徒に示すことが大切です。



Point 1: ALT等との対話の時間を大切にしましょう!
GTECの調査では、基本的な聞き取りを分けるに難題があることが分かっています。ネイティブの発音に慣れる発音練習をすることで、聞き取る能力が向上すると考えられます。授業中にALTや英語先生の発音練習を聴くなど、英語に触れる機会を増やしましょう。

Point 2: 全体の概要をつかむ力や、必要な情報を聞き取らせる力を身に付けさせましょう!
教科書本文での聞き取り練習はありますが、英会話や文法で意味を説明することに慣れてしまっています。教科書の本文だけでなく、様々な場面での聞き取り練習をさせましょう。また、聞いた後で内容に関する True or False を行い、生徒がどれくらい内容を理解しているかを確かめます。

必要な情報を聞き取らせるためには、全ての内容を聞き取らせるのではなく、聞く場や状況から判断し、求められている情報を把握できることが大切です。その際、聞く目的を持って活動させるなど、事前に聞くポイントを示すことも重要です。

詳しくは、『中学校英語4技能をバランスよく育成するために』P. 5~6へ!



© 岡山県「ももっち」

Readingの力を伸ばした学校はこう取り組んでいる!

① 明確な目的をもって読ませる

Point

- ・必要な情報を読み取らせる
- ・概要を捉えさせる
- ・要点を捉えさせる

- 教科書本文など、まとまりのある文を読ませる時は、自力で黙読する時間を確保する。
- 読み取らせたいポイントを読む前に示す。
※ポイントはListeningと同様
 - ・英語で質問を与えた場合は、習熟度に応じて、答え方を次の2つから選択させる。
 - ① 文中に下線を引く。② 英語で答えを書く。
- 返り読みをさせない。
- 知らない語や表現を推測しながら読む力を育てるために、新出単語や文法の学習より先に、本文読解を行う機会をもつ。

Point

音読は意味や内容を意識させる

- リピートやシャドーイング等の音声重視の音読練習の後、内容重視の音読へつなげる。
- スラッシュリーディングを行い、文章の意味や内容を意識しながら読む練習をさせる。
- 意味内容を相手に伝えるために、発音・アクセント・間の取り方等を考えながら読ませる。

② 多くの英文を読ませる

Point

まとまった量の初見の英文に慣れさせる

- 市販の教材、ALTが作成する英文等の初見の英文を読む機会を増やす。
 - ・様々な題材、形式の英文を扱う。

〔題材例〕

- 日常的な話題 ○社会的な話題 等

〔形式例〕

- 説明文、意見文、感想文、対話文
- エッセイ、物語
- 広告、パンフレット、予定表
- 手紙、電子メール 等

- 読み取らせたいポイントをしぼり、深読みさせず、設定した時間内に読ませる。
- 日本語訳は配布し、家庭学習等で活用させる。

技能を統合した言語活動

Reading + Speaking

- 読んだ英文の一部を自分の立場に置き換えて発表させる。【話すこと（発表）】
- 読んだ英文の内容について、感想や考え等をやり取りさせる。【話すこと（やり取り）】

Reading + Writing

- 教科書の本文を読んだ後、2～3文の英文で要約させる。【書くこと】
※段階的に取り組ませる。
 - ①各段落の最も重要な文に下線を引く。
 - ②①の文を並べて書く。
 - ③②の文を人に伝えられる形に整える。
(人称代名詞を適切に変えたり、文をつなぐ語句を加えたりする等)
 ※教員の例文は最後に示す。

Reading

Readingでは、限られた時間内に全文全体の概要を把握する
ため、必要な情報を正確に読み取る力が求められます。

目標・概要・要点を読み取らせる

必ずしも教科書本文を繰り返して読ませない。必要に応じて、必要情報を読み取るかを身に
付けさせ、目標においては、次の段階に進捗した読みの練習を行います。
また、読むことへの抵抗感を減らすことが必要のため、題意と趣意を次で書かれた生徒
によって発する教材を選び、徐々に分量を増やして読み取ることに慣れさせましょう。

読み取る力の段階

教科書本文の要約をするのではなく、概要や要点がつかえるよ
うにまとめるための練習を行います。

日常的な
読解を練習
⇒ 広告やパンフレット、予定表、電子メール、日常的な読解に関する
語彙、表現やエッセイ、物語等、必要な情報を読み取る動作が、概
要を把握できる教材を選びましょう。

社会的な
読解を練習
⇒ 社会的な読解に関する読解問題など、要点を把握できる教材を選
びましょう。イラストや写真、図表などが活用できると効果的
です。

音読
⇒ 読解で理解した内容を音読する際には、音読の内容に合わせた
音声を聴かせ、さらなる理解の深化につなげましょう。
(朗読会) 発音、アクセント、発音、速さ、声の大きさ、感情等

Point 1: 教科書以外の文を読ませましょう!

2つの読解から、教科書以外の初見の文や、まとまった量の英文を練習
の機会を設け、概要や要点を読み取ることで、必要情報を読み取る
能力を、読解目的の練習から徐々に身につけていきます。読解の
段階で生徒が自ら進捗させることが重要であり、必ずしも教科書本文
から始め、徐々に分量を増やして読み取るようにしていきます。

Point 2: 読むことに慣れさせましょう!

限られた時間内に全文全体の概要を把握するから求められるため、時間
を決めて読み取りができるよう指導することも大切です。

Point 3: 技能を統合した授業を行きましょう!

読解で理解した内容を音読したり読んだりする活動を行うことが必要
です。例えば、エッセイや物語を読んだ感想などについて発表するなど、
読解活動につながることであります。

詳しくは、
『中学校英語
4技能をバランスよ
く育成するために』
P. 11~13 へ!



Writingの力を伸ばした学校はこう取り組んでいる!

① 基本的な語句や文の定着を図る

Point 『授業→家庭学習→小テスト→補充学習』のサイクルで定着を図る

Cycle & Feedbackの徹底

授業と連動した家庭学習で定着を図り、身に付いた力を活用させる場面づくりを工夫しましょう。

- 語句・基本文習得の徹底を図る。
 - ・新出語句や基本文を授業の言語活動で十分扱う。
 - ・授業で扱った新出語句・基本文を家庭学習で練習させる。
 - ・定着を確認するための小テストを実施する。
 - ・間違えた内容は再度練習、放課後の補充学習、授業での再確認等で、定着を図る。
- 繰り返し英作文をさせる。
 - ・新文法と既習事項との関連や使い分け等を理解させた上で、確実に習得させるため、基本文を参考に、多くの英作文をさせる。

技能を統合した言語活動

Writing + Speaking

- 作文した内容を基に、ペアやグループで会話させる。【話すこと（やり取り）】
- 作文した内容を発表し、発表について質疑応答させる。【話すこと（発表・やり取り）】

※「話すこと」と統合させる際、原稿の音読にならないよう注意が必要。

Speaking + Writing

- インタビューしたALTについて紹介させる。【書くこと】
 - ※インタビューでは多くの情報を得るために、多く質問し、答えに対して追加質問もさせる。
 - ※得た情報を基に、ALTの紹介文を書かせる。
 - ※人物紹介のスピーチを行うこともできる。【話すこと（発表）】

② まとまりやつながりのある文を書かせる

Point ・英文構成の形式を習得させる
・最初は例文を参考に書かせる
・自分のことを書かせる

- 語や文法の間違いにとらわれすぎず、まずは書くことに慣れさせる。
- 自分の考えや思いを表現させる題材を設定する。
- 英文構成の形式を習得させる。
 - ・段階的に指導する。
 - ①教科書の文やWritingの解答例等をモデルとして活用し、英文構成や展開を理解させる。
 - ②書き出しの文を書けるようにする。
 - ③最初の文に続けて、「理由」か「説明」を書く練習をする。※理由として妥当かについても考えさせる。

〔英文構成の例〕

- 主張 + その理由や説明
- 序論 + 本論 + 結論

- 例文を参考に作文させる。
 - ・例文の一部を自分の立場に置き換えて作文させる。
 - ・教科書の文の構成を参考に書かせる。
- 徐々に正確に書けるようにさせる。
 - ①まずは短時間で自力で書かせる。
 - ②グループで互いの作文を読み合い、他者の表現から学ばせ、書き直しや書き直しをさせる。
 - ③JTEやALTの助言をもとに、最終の書き直しをさせる。

詳しくは、『中学校英語4技能をバランスよく育成するために』P. 14~15へ!



④ Writing

Writingでは、自分の意見や考えをより分かりやすく伝えるために、まとめた文章を書いたり、理由付けをしたりすることが求められます。教科書や資料集などに「課題文」が示されていますが、まずは「書く」ことに慣れる活動をしつつ取り組ませましょう。

書くに付いた指導を活用して、表現させる

まずは文法の細かい間違いにとらわれず、自分の伝えたいことを文にしてみることに始め、最終的には、文章を整える力（正確に書く力）を身に付けさせましょう。

● 題材・場面・ゴール文が明確、主題によって構構のある事例や身近な題材を設定するなど、書くに慣れさせること大切です。

● 書くに付いた指導を活用して、表現させる

● 新出語句や新出文法などを基に、まずは自分のことや身の周りのことについて書くことに慣れさせましょう。

● (例) ワークシートで、例文から採った文を書けるように

● 伝えたい内容を正確な英語で書くことが出来るかを身に付けさせましょう。

→ P. 15 (例) 例文「おひい」参照

● 次文の順序や相互の関連に留意させたり、内容について補綴させたりしながら、最終的にまとめた文章を書くようにさせましょう。

● (例) 「導入・本論・結論」や「主題・根拠・例・主題」の書き換えや「要約」など、文章構成の特徴を習得させる等

Point 1 : 書くことに慣れさせましょう!

GTECでは、問題場面が書く、書くことに慣れていない生徒が多いと考えられます。まずは文法の細かい間違いにとらわれず、伝えたいことを文にしてみることに始め、最終的には、文章を整える力（正確に書く力）を身に付けさせましょう。

● 書くに付いた指導を活用して、表現させる

● 新出語句や新出文法などを基に、まずは自分のことや身の周りのことについて書くことに慣れさせましょう。

● (例) ワークシートで、例文から採った文を書けるように

● 伝えたい内容を正確な英語で書くことが出来るかを身に付けさせましょう。

→ P. 15 (例) 例文「おひい」参照

● 次文の順序や相互の関連に留意させたり、内容について補綴させたりしながら、最終的にまとめた文章を書くようにさせましょう。

● (例) 「導入・本論・結論」や「主題・根拠・例・主題」の書き換えや「要約」など、文章構成の特徴を習得させる等

Point 2 : 条件を付けた例文に取り組みさせましょう!

これまでに学んだ文法、語彙について、指定された条件で書くこと、理由を添えて書くことなど、条件を付けた作文を書くことに慣れさせることが目的でしたが、GTECにおいても同様の練習が求められます。条件を付けた例文に取り組みさせることで、国語と英語の知識と連携して「書くこと」を習得した生徒の成長の促進に繋がります。課題文に対して書くことが出来ます。

Point 3 : 技能を統合した授業を行いましょう!

聞いたり読んだりしたことについて自分の考えを言ったり、話す活動において最終的に書くことをお願いして書く活動を促すことが出来ます。また、聞くに付いた練習を促すことで、読む活動も促すことが出来ます。

現在の取組、セルフチェック！

自分自身の授業を次のチェックリストで確認し、さらなる授業改善に生かしましょう。



よく行っている	どちらかといえば行っている	あまり行っていない	全く行っていない
4	3	2	1

		月 日	月 日		
Cycle & Feedback	1	『授業→家庭学習→小テスト→補充学習』のサイクルで、基本的な語句や文を定着させている。			
英語使用	2	授業は英語で行っている。（教師の発話の75%以上）			
	3	教師の発話より生徒の英語発話の方が多。			
言語活動	7	4	言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成している。		
		5	言語活動の目的は明確である。		
		6	言語活動は自分の考えや思いを伝え合う活動になっている。		
		次のような言語活動を行っていますか。			
		聞く	① 日常的な話題について、話し手の意向を正確に聞き取る活動		
			② 簡単なアナウンスなどから、必要な情報を聞き取る活動		
	③ 日常的・社会的な話題に関する文章を聞いて、概要や要点を把握する活動				
	読む	④ 文章の内容や構成を考えながら黙読したり、音読したりする活動			
		⑤ 日常的な話題について、必要な情報を読み取る活動			
		⑥ 日常的・社会的な話題に関する文章を読んで、概要や要点を把握する活動			
	話す(やり取り)	⑦ 関心のある事柄について、即興で適切に回答し、会話を継続させる活動			
		⑧ 日常的な話題について、互いの考えを伝え合う対話を継続させる活動			
	話す(発表)	⑨ 関心のある事柄について、即興で説明する活動			
		⑩ 日常的な話題について、簡単なスピーチをする活動			
	書く	⑪ 自分に関する基本的な情報を書く活動			
		⑫ 手紙やメールの形で、自分の近況などを書く活動			
		⑬ 日常的な話題について、まとまりのある文章を書く活動			
	技能統合	⑭ 身近で簡単なメッセージを聞いて、適切に回答する活動			
⑮ 日常的・社会的な話題を聞いて、その内容を英語で説明する活動					
⑯ 聞いたり読んだりした社会的な話題について、自分の考えを伝え合う活動					
⑰ 聞いたり読んだりした社会的な話題について、自分の考えを発表する活動					
⑱ 聞いたり読んだりした社会的な話題について、自分の考えを書く活動					
CAN-DOリスト	8	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を公表し、達成状況を把握している。			

※コピーして、繰り返しチェックしましょう！

※移行期間中に75点を目標して頑張りましょう！

/100

/100

岡山県教育庁義務教育課 平成31年3月